

学校生活が軌道の乗ってくる5月。教師と子ども、子ども同士の人間関係をさらに深めていきたいものです。そのために、子どもをよく見て、思いをよく聴き、教師が自分のことばで語りかけたり、互いを認め合う関係づくりを進めたりしましょう。係活動による自治的な取組を支援していくことにも気を配り、5月の風のような爽やかさが学級の中に広がるように、学級活動を構想していきましょう。



<小学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

子ども理解は「聴くこと」から

子ども理解は学級づくりの基盤であり、その第一歩は「子どもの話を聴くこと」です。

このような聞き方をしていませんか？

- ・「日記を読みながら」のように子どもの目を見ないで聞く。
- ・「それはダメだよ」「どういうこと？」のように、すぐに話を遮り、適当に聞く。
- ・子どもが構えてしまうような表情、態度等で聞く。

このような聴き方をしてみましょう。

- 話す子どもに向き合って聴く。(表情からも思いをくみ取る)
- 子どもが話したいこと、伝えたいことを受け止めながら、まずは最後まで聴く。
- あいづちを打ちながら、笑顔で聴く。(内容にもよる)

真摯に聴くことで、教師の子ども理解が深まり、子どもたちは「聴いてくれる先生」への安心感、信頼感を高めます。



子ども同士の遊びをつないで

子どもたちが休み時間に、「先生、遊ぼう！」と声をかけてきた時には仕事の手を止めて、笑顔で一緒に遊んでいる先生が多いと思います。そこで、次のような点に留意してみてもいかがでしょうか。



- 声をかけてくれた子どもは、友だちと遊びたいけれど、自分からは声がかげにくかったのかもしれない。先生を含めてその子と他の子どもと一緒に遊ぶ場面をつくりましょう。次は自分から友だちに声をかける姿が見られるかもしれません。
- 一緒に遊んでいる中で、子どもたちの様子を見守りましょう。思いがけない友だちへの温かなかわりや、友だちのよさを口にする姿が見えてきたら、その姿を認める声かけをしましょう。

教師が子ども同士の遊びをつなぐことが、子どもたちの他者理解や他者に働きかける力の育ちにつながり、人間関係形成・社会形成能力が育まれていくことが期待できます。

<中学校>

学級づくりをキャリア教育の視点からみると

学級づくりに運動を

仲間とかかわりながら運動することは、望ましい人間関係づくりにつながります。学級づくりに運動を取り入れてみてはいかがでしょうか。

《仲間とかかわりながら行う運動の例》

クラスみんなで長縄跳び

○クラス全員で、一回旋で一人ずつ縄を跳ぶ。5分間で何回跳べるかを競う。(8の字ジャンプ)

ボールパスラリー

- ドッジボールなどを使い、3分間で何回パスができるかを競う。
- バレーボールなどを使い、キャッチしないパスラリーを何回続けられるかを競う。



ここで紹介した種目等の記録をウェブ上で競い合うのが、「ながのスポーツスタジアム」です。インターネットで、「ながのスポーツスタジアム」と検索してください。

学級に必要な一員としての係活動へ

係活動を通じて、学級で必要とされているという実感がもてるように、次の3点を意識しましょう。自己の役割の理解が促され、自己理解・自己管理能力の育ちにつながります。

役割を明確にする。

- ・係ごとに目標や活動内容を考える時間をとり、自分の役割を自覚できるようにしましょう。
- ・目標や活動内容は教室内に掲示して、常に意識できるようにしておきましょう。

定期的に活動を振り返る。

- ・短時間でよいので定期的に目標や活動を振り返る機会を設けましょう。
- その際、互いの活動についての感謝の気持ちを伝え合う場面を設けるのもよいでしょう。



学級のために活動している姿を共有する。

- ・係活動を「やって当たり前」と見るのではなく、地道に取り組んでいる姿を積極的に学級通信や短学活で紹介し、学級全体へ広げましょう。